

私の出身地、新疆は「幸せなところ」です。

日本で新疆の出身ですと言うと、名前を聞いたことがある人は「テロがあるところですね？大丈夫ですか？」と言います。怖いところだと思っている人もいらっしゃるのではないのでしょうか。実際はぜんぜん違います。テロは一部の話で、多くの民族が仲良く暮らしているのです。

また、「新疆？じゃあ、ウイグル族なんですか？」と言われることも多いです。その度に、私は「いいえ、モンゴル族です」と答えます。中国が多民族国家だという時、新疆はウイグル族、内モンゴルはモンゴル族というふうに住んでいるところが決まっているわけではありません。新疆の中に、ウイグル族やモンゴル族など47の民族が住んでいるのです。

私が「新疆は幸せなところですよ」と言うのは、多くの民族が住んでいる新疆は「みんな違う」ということが前提になっているので、「違う」ことを普通のことと思って、仲良く交流しているからです。

新疆にいる47の民族それぞれが、独自の文化を持っています。たとえば、私達モンゴル族の多くには苗字がありません。私の友人の山中こうきくんなら、山中は家の名前でしょうけれども、モンゴルでは家の名前がなく、下の名前だけお互い呼び合っているのです。

このような違いが当然あるものだと思って、お互いを認め合っているのが新疆なのです。

共通語として中国語を話しますから、コミュニケーションで困ることはありません。

同じ中国でも、四川省に行った時、漢族の人が圧倒的に多くて、そうした違いを認めるといふ感じではありませんでした。それは、日本でも同じでした。

日本の中学校に入った時、最初の1週間は皆興味を持ってくれて、すごく話しかけられました。しかし、1週間を過ぎると、パタッと話しかけてくれなくなりました。日本語が上手く話せないこともあって、友達はできませんでした。そこには、「見えない言葉の壁」があったのです。

先生も、理科の先生以外は、ほとんど話しかけてくれませんでした。その理科の先生が、4カ月過ぎたあたりで、私の日本語が「うまくなっているね」と言ってくれた時は、ほんとうに嬉しかったです。

新疆にいる時は、毎日、できるだけ早く学校に行って友達に会い、できるだけ遅く学校から帰りたかったのですが、日本に来てからは、できるだけ遅く行って、できるだけ早く帰りたいと思うようになりました。

中学校には外国人の生徒がいませんでした。いたのかもしれませんが、私にはわかりませんでした。日本では、外国人が見えにくいのかもかもしれません。

市役所の資料をインターネットで調べてみたら、7000人くらいの外国人が柏に住んでいます。柏市の人口が40万人くらいですから、それに比べたら大した数ではありませんが、7000人というのはかなりの数のだと私には思えます。

市立柏高校に来て、イラン、ネパール、イタリア、フィリピン、中国、エジプトなど外国から来た友人や先輩が何人もいたので、とても安心しました。同じ中国から来たということではなくて、新疆と同じように、違う文化の人という前提で話せたからです。

今は日本の友達も増えて来て、毎日、学校が楽しくなっています。

去年の夏、市立柏高校で開かれた中国語講座で手伝いをさせてもらったのですが、興味をもって私達の話聞いてくださる日本人の人がたくさんいて、とても楽しい思い出になりました。案外、たくさんの方が外国のことに興味を持っているのかもしれない、けれど、言葉の壁もあって、なかなかそれを表に出せないのではないかという考えも出てきました。

日本人でも、本当は、みんな違っているはずです。なのに、みんな同じだと考えているところがあって、窮屈に感じている日本人の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。新疆のように、「みんな違っている」と考えていったら、お互いにもっと気楽だし、お互いの個性を認め合うことができるようになるのではないかと思います。

そして、日本人の中にも、他の人から声をかけてもらえないで寂しい思いをしている人がいるかもしれません。その人に関心を持っていても、話しかけないという人もいるでしょう。お互いが「違っているんだ」という気持ちをもって、まずは、相手に声をかけてみるというところから、国際交流に限らず、人と人の本当の交流が始まるのではないかと思います。